

教科「家庭」の学び方

教育目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的態度を育てる。

具体的な目標

- 1 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、各ライフステージの特徴と課題について理解させるとともに、家族や家庭生活の在り方、子ども、高齢者、さまざまなハンディキャップを持つ人々について学び、共に支え合って生活することの重要性について認識させる。
- 2 自立の基礎となる衣・食・住、および消費生活についての基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、環境に配慮したライフスタイルについて考えさせるとともに、主体的に生活を設計することができるようにする。
- 3 自己の家庭生活や地域の生活と関連づけて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践することを通して生活を科学的に探求する方法や問題解決の能力を身に付けさせる。

学び方

本校では2年生からの2年間で「家庭基礎」(3単位→2年次2単位、3年次1単位)を学習します。2年次には「自立」「衣生活」「食生活」「住生活」の分野を、3年次には「家族」「高齢者」「子ども」「消費生活」の分野について学びます。(今年度から2年生で「消費生活」を先に学び、3年生で「住生活」と入れ替えます。)

授業だけでなく、日常生活の中の日に入るすべてが家庭科の教材です。実は、家庭科は多くの教科の中で最も「生命」「人」に密着した教科なのです。

この世に生まれ、性別に関係なく人として成長し、自立し、社会に貢献し、助け合ってその生涯を終えるという人間の一生を縦軸に、その時その時の出来事を横軸に織りながら学んでいきます。

また様々な実習を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識や技術を身につけながら、生きていくために欠かす事のできない「段取り力」を身につけることを目指します。

- 1 授業で
 - (1) 物事を生活のあらゆる場面と結びつけ、よりよい生活にするために、問題意識を持って取り組んでください。
 - (2) 作品や提出物は提出して初めて評価の対象となります。単に提出するのではなく、常に向上心を持って取り組んでください。
 - (3) 板書したことはもちろん、口頭説明についても自分なりに工夫して残してください。常に自分で考え、積極的に授業を受けることで力がつきます。
 - (4) 授業規律を大事にします。時間を守り、服装頭髪を整えて授業を受けてください。忘れ物や他人に迷惑をかける行為は厳禁です。キーワードは「けじめ」です。
- 2 家庭で
 - (1) 授業で学んだ事を実践して初めて「生きる力」となります。実際の生活に役立ててこそ学ぶ意味があります。家庭だけでなく、あらゆる場面で実践し「生きる力」を確かなものとしてください。
 - (2) 社会の動きに関心を持ち、ニュースや新聞には必ず目を通してください。
 - (3) どんなことにも「なぜ？」という疑問を持ち、より良く生活するために課題を解決する前向きな姿勢を持ってください。